

## ◆重点普及課題

# 沖縄県海ぶどう生産者協議会の再始動

水産海洋技術センター 紫波俊介 仲盛淳 久保弘文  
宮古農林水産振興センター 吉田聡 津波古竜器  
八重山農林水産振興センター 赤嶺貴史

## 1. 目的

沖縄県海ぶどう生産者協議会（以下「協議会」という）は、事務局の不適切な活動により、事業が停滞し、事務局員が不在になったことから県産飼料購買を除き1年程活動が休止していた。

しかしながら、協議会活動の活発化を望む会員も多いため、適切な事務局員が在席する事務局を設置し、会員へ事業報告・事業計画を行い、協議会活動再始動、自立への支援を目的とする。

## 2. 方法と結果

### （1）協議会総会準備

#### ①協議会総会準備会議の開催と暫定事務局の設置

総会開催が重要課題である為、當眞亮協議会会長、安里一月協議会副会長等と4月21日に話し合い、総会開催までの暫定事務局に（株）久米島海洋深層水開発が人員・場所を提供してもよいとの申し出が有り、同社が暫定事務局となった。

これにより、暫定事務局を中心に事業計画書・事業報告書・事務局案・役員会を行う事となり、総会開催への体制が整った。

#### ②第2回協議会準備会議

協議会会長・副会長等と5月21日に話し合った。総会后、会員の承認が得られれば久米島海洋深層水開発を事務局にする事となった。事業報告は会長、事業計画は暫定事務局が中心となり作成し、7月中旬に第5回通常総会を開催することとなった。

#### ③協議会総会準備会計画作成部会

協議会副会長、天久明事務局長と5月25日に話し合った。事業計画の柱を①「海ブドウ品評会」の開催、②会員情報交換会の開催、③県産飼料購買とし、6月28日までに、計画を作成することとなった。

適宜部会を開催し、共に協議会会員や役員への巡回を行い、協議会総会への進捗情報報告、意見徴収を行った。

#### ④飼料協業組合との飼料購買継続調整

6月13日に協議会副会長、事務局長と共に飼料協業組合へ今後協議会事業収入を増やすため、会員等への販売を増やしていきたい意向を伝えたところ、現状の3倍程度の生産でも問題ないと、また成分の変更についても継続して調整する場を設けても良いとの前向きな回答を得た。

### （2）役員会開催および第5回通常総会の開催

7月19日に役員会・総会が恩納村コミュニティーセンターにて開催された。

平成26年度・27年度事業報告及び、平成28年度事業計画について承認され、今年度「海ブドウ品評会」の開催を、県と共同して進めることとし、県産飼料購買活動を促進することとした。

また、事務局を（株）久米島海洋深層水開発に設置する事となり、新協議会会長に安里一月氏、副会長に當眞亮氏が選ばれた。

### （3）会員情報交換会

衛生環境研究所久高潤上席主任研究員より、海ブドウの衛生管理について、井上顕主任研究員に協議会会員と共に試験研究を行った赤色ネットによる雑藻抑制試験および、肥料成分の時間的推移にて発表頂き、会員との意見交換を行った。

#### (4) 海ブドウ品評会

事務局が、普及員と共に会員に対しマニュアル普及、品評会への協議会会員参加呼びかけ、準備等を主体的に実施し、品評会開催成功の原動力となった。

### 3. 考察

協議会が再始動できたのは、多大な負担となる事務局を（株）久米島海洋深層水開発が引き

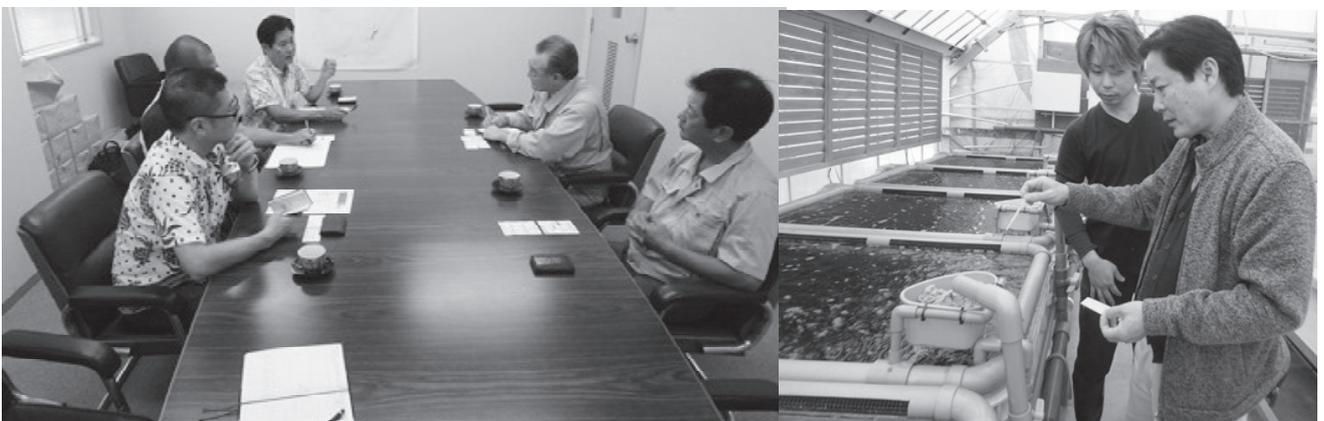
受ける事を決断し、優秀な事務局員による円滑な運営が行われた事に尽きる。

また、事業報告・事業計画の樹立には、當眞副会長が過去の事業内容を整理したことと、飼料購買事業を継続したことが欠かせなかった。そして総会、品評会は会員の積極的な参加が無ければ開催できなかった。

今後とも協議会がより自立して運営できるよう、とりわけ事務局活動の支援を行っていきたい。



第5回通常総会後の情報交換会



飼料協業組合との飼料購買継続調整

協議会事務局のマニュアル普及活動